

## ロバート W. コーン



ロバート・W・コーン博士は、カブリ財団の理事であり、また彼の学術研究とリーダーシップ、さらに民間企業での経験は広く知られている通りです。彼は、ジェイコブス・スクールのディーン名誉教授でもあり、またウォルター・ザブルの工学部教授、カリフォルニア大学サンディエゴの名誉教授も併任しています。彼は Pratt Institute で化学工学の学士号を取得、そしてカリフォルニア工科大学において機械工学の修士号を、技術工学の博士号を取得しました。

カブリ財団の理事に就任する以前の 2002 年から 2008 年は、起業したばかりの IT 企業とライフサイエンス企業に特化した投資会社、エンタープライズ・パートナーズ・ベンチャーキャピタルの常務取締役を務めました。常務取締役として彼は、投資を主導し、また多くの民間および公共企業の理事会のメンバーを務めました。

1993 年から 2002 年までカリフォルニア大学サンディエゴ校の工学部の学部長在任中には、ヤコブ工学スクールを教員や学生、また評判においても前例の無いほど成長させ、現在の国内トップクラスの工学系学校としての地位を確立させました。コーン博士在任中に設立された研究所には、ワイヤレス・コミュニケーション・センター、ウィティカー生体医工学研究所、そしてカリフォルニア大学情報コミュニケーション技術研究所(Calit2)などがあります。また、大学と様々な産業界とのパートナーシップを構築し、産学連携を促進する為のフォン・リービッチ・アントレ技術振興センターを設立しました。

1980 年から 1993 年までは UCLA の工学部および応用科学部の教授を務め、UCLA のプラズマ核融合研究所の創設者(1986)として最初の研究所長を務めました。1970 年から 1979 年まで、彼はウイスコンシン大学マディソン校の原子力工学と工学物理学科の工学物理学教授を務め、その間の 1974 年から 1979 年までは大学の核融合技術研究所のディレクターでもありました。さらに 1977 年から 1979 年まで Romnes 寄付講座教授職にも就いています。

コーン博士は、プラズマ物理学と核融合エネルギーの指導研究員であり続け、またエネルギー政策や科学政策にも積極的な提言をしてきました。さらに彼は、利用可能な原子力動力炉としての核融合システムの研究の開拓、及び実用的な核融合炉の開発が直面する物理学的、工学的な問題点を特定してきました。彼の理論的および実験的研究対象は、主に核融合プラズマ物理学、プラズマ境界層、表面科学、化学、物理学です。彼が 1987 年に全米工学アカデミーに選出されたのは、まさにこの核融合エネルギー開発に関する研究の貢献によるものです。

民間企業での経験の中には、1995 年既に NASDAQ に株式公開していた半導体製造会社を 1987 年に共同創業者として創始したプラズマ&マテリアル・テクノロジーズ株式会社も含まれます。彼は 2000 年以来、インターシル社の取締役会も務めています。また彼は、同社がプライベート・エクイティ取引で買収した STATS ChipPAC 社の理事も 2002 年から 2007 年にかけて務めています。

コーン博士は全米工学アカデミーの会員であり、また NAE の財務委員会のメンバー、アメリカ物理学会とアメリカ原子力学会のフェローでもあります。彼の研究が受賞した数々の賞には、米大統領の名代で贈られるアーネスト O. ローレンス記念賞、工学教育協会マッグロウ研究賞、米国エネルギー省による著名研究員賞、カリフォルニア工科大学特別同窓会員賞などがあります。また彼は米国政府ならびに国立研究協議会、全米科学アカデミー他、多くの国立研究所の諮問委員も務めています。